

アートギャラリー

犬島時間 参加作品「minasoko」－水底

岡本清文



犬島は瀬戸内海の岡山水道南東部に浮かぶ小島である。古くは良質の花崗岩の産地として栄え、大阪城石垣の巨石もここから運ばれた。また近代になると銅の精錬所が造られたが、銅価格の暴落により、わずか10年の操業を終えた。近代化産業遺産にも指定された廃墟は2008年に美術館として再生している。

この静かな島で数年前より美術展「犬島時間」が行われている。土地の歴史や環境などに制作の構想を得ながら毎年約10名の招待作家が、島のあちこちをギャラリーと見立てて作品を展示する。

今年8月に開催された第6回犬島時間に造形作家の細見博子氏とのコラボレーションとして参加した。

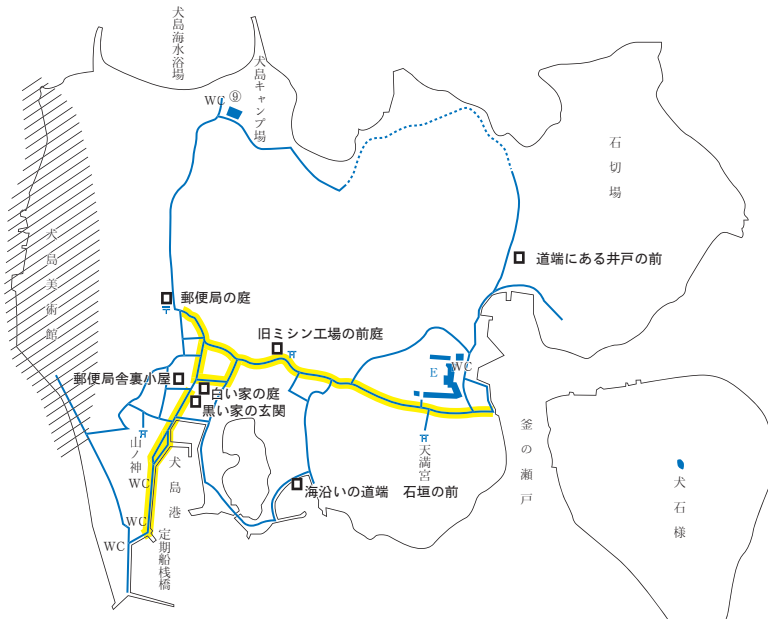
コンセプト

降雨量の少ない瀬戸内の島々に暮らす人たちにとって、水は生命線といえます。

犬島でも、古くから最も安定した給水システムとして井戸が掘られてきました。現地で採取される良質な花崗岩を組んだ井筒は、今も島内に多く散見されます。よく見れば、家屋はとうに朽ち果てた後に、かつての住人を偲ばせるかのように井筒だけが残っている光景にも出会います。また、井筒さえ姿を消した跡に、ひっそりと一本の竹筒が覗いていることもあります。この小さな筒は、地中深くに住む井戸の神様が大气と繋がって呼吸をするための装置です。島民の暮らしを確実に支えてくれた井戸への誠実な感謝の心が、冷たい水底に様々な神様を誕生させ、住ませたのでしょう。

作品「minasoko」は、井戸の底に住まう水神の姿を形にして、過去から連続と続くライフラインの存在を再認識する仕掛けです。同時に犬島に暮らす人々の幸福な未来の生活を願う祭壇でもあります。

七福神にあやかり、7つの作品を処処に点在させ、巡りながら鑑賞します。



作品データ： 鉄の箱 800×800×H750 に真水+乳剤 オブジェ制作 細見博子
写真撮影 青地大輔（注釈のあるもののみ、その他は筆者撮影）

道端にある井戸の前



旧ミシン工場の前庭



上段写真 青地大輔氏撮影

郵便局の庭



下段写真 青地大輔氏撮影

郵便局舎裏小屋



下段写真 青地大輔氏撮影

白い家の庭



下段写真 青地大輔氏撮影

黒い家の玄関



下段写真 青地大輔氏撮影

海沿いの道端 石垣の前

